

シェルドン余話 1 インド哲学

シェルドンの文献を精査すれば、彼の奉仕理念は修正資本主義を30年以上も先取りした斬新な経営理論であることが分かります。過酷な資本主義が労働者を徹底的に搾取していた時代に、労働者の立場を理解し、利益を適切にシェアしながら、継続的に利益をもたらす顧客を確保する目的で事業を営むことを提唱し、その考え方を順守したシェルドン・スクールの卒業生の努力によって、現在の資本主義社会の発展をもたらせたと言っても過言ではありません。

シェルドンの文献を解析していくと、極めて斬新で革新的な経営理論がある一方で、極めて保守的な哲学の影響があることに気が付きます。

1913年にバッファローで開催されたロータリークラブ連合会の年次大会のスピーチで、次のように述べています。

「長い間、私の心の中では、ロータリーの理念の中心的な思考である奉仕に対する疑問が、私にとっての大きな難題でした。私はそれを分析して、答えを得ようと試みましたが、しかし、インドの哲学者であり作家であるバガバン・ダスの本を読む日までは、その答えを見つけることはできませんでした。ある部分を読み下っていくと、次のように書かれた、神秘的な真理の三つの言葉を見つけたのです。「量、質、管理状態」。多分、バガバン・ダスは、商売を懐疑の目で見えていたのでしょう。私は、彼が、むしろ、商取引を汚い物として見下しており、生き様を変えることによって職業としては避けるべきだと考えているのではないかと推察しました。しかし、真理のささやかな三原則「量、質、管理状態」を見つけたとき、奉仕の分析を見つけた感じで、思わず万歳を叫びました。」

また、1917年に書かれた「経営学」の中では、次のように説明しています。

「経営学はついに、奉仕の原則を分析しました。構成している要素に、それを変えて結合させて実行すると、上得意の心の中に満足という精神的な状態を引き起こす奉仕の種類を作る要素を発見しました。経営学の著者は長い間、奉仕の適切な定義を捜し求めていました。11年間もそれを捜し求めましたが、見つけることはできませんでした。バガバン・ダスの平和の科学を読んでいる時、探し求めていたものを見つけて、思わず叫び声をあげました。彼の目が質、量、管理状態と呼ばれる三つの関連するグループを目にした時、ついに長い間探し求めていた奉仕の分析を見つけたことに気がきました。経営学はついに、奉仕の原則を分析しました。構成している要素に、それを変えて結合させて実行すると、上得意の心の中に満足という精神的な状態を引き起こす奉仕の種類を作る要素を発見しました。」

すなわち、この記述から、シェルドンはバガバンダスの「平和の科学」の中から質、量、管理状態という奉仕の三角形、さらに言い換えればロータリーの奉仕理念を見つけ出したと言えます。

この記述に興味を示して、「平和の科学」をあらこちら探し回った結果、バーミンガムのとある古本屋にこの本があることを突き止めたので、早束手配しました。イギリスからアメリカに住んでいる娘経由で届いたので、結局本代の倍ほどの運賃を支払うことになりましたが、やっと2日ほど前に届きましたので、現在、翻訳に格闘中です。

ざっと、キーワード検索をした結果、質、量、管理状態の奉仕の三角形に触れているのは一か所のみで、それもその内容の説明ではなく、単なる三元論の一例として、記載されているに過ぎませんでした。

まだ、ざっと目を通しただけですが、かなりの部分にインド文字が使われているので、翻訳は困難を極めている状態です。

バガバン・ダスは 1869 年に生まれ 1958 年に亡くなった、インドの哲学者です。ヒンドゥー教の聖職者の立場からは神智者と呼ばれており、変換の心理学、平和の科学、宗教の科学、感情の科学などの数多くの著書があります。

平和の科学の中で彼が述べていることは、宇宙は万物を支配する神の自然のエネルギーで支配されており、宇宙のすべての活動の基礎はすべて三つの因子で構成されているという、ヒンドゥー教の三元論が展開されています。

物質に対する評価は、増えたか、減ったか、変わらないかの三つの評価であり、精神的な評価は、奔放か、狭小か、寛容かの三つの評価であり、身体の発育については、成長か、継続か、衰弱か、また精神的には、追求か、あきらめか、無関心か、そして私たちの霊魂は喜びと痛みと平和という三つの状態を感じると述べています。

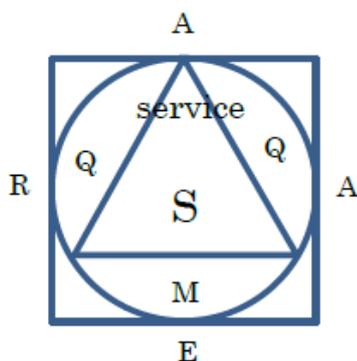
そして Mula-prakrit (神との自然の契約) として特別な関係を持ったものが、質、量、管理状態の形を表し、この三元論は古くカントに由来するものであることが述べられています。

シェルドンがカントの影響を強く受けているのは、その根底となっている認識論が共通であることや、双方が共に原因結果論 (因果論) や学校教育に対する批判を述べていることから容易に理解できます。

この両者の影響を強く受けたシェルドンは奉仕理念を説明するに当たって、これに倣って、幸福の三角形、奉仕の三角形、人間力の三角形、原因の三角形を提示したものと思われます。

つい最近、シェルドンの墓石に関する新しい事実が、幾つかみつけました。

He profits most who best と共に、質、量、管理状態を表す奉仕の三角形が刻まれていることは、



みなさんご存知のことですが、よくよく調べると、この三角形は円で囲まれ、更にその周りを四角形で囲んでいることが分かります。

そして上にA、左にR、下にE、右にAの文字が刻まれています。

これはシェルドンが強調した教育論、すなわち

- A Ability 能力
- R Reliability 信頼性
- E Endurance 忍耐力
- A Action 行動力

の頭文字を組み合わせた、AERA すなわち、真の教育とは、知識を教え込むことではなくて、その人のあらゆる部分の守備範囲を広げて、持っている潜在的な能力を引き出すことということになり、カントやバガバン・ダスの教育論と一致するわけです。

なお墓誌には、Spouse : Anna Griffiths Sheldon (1871 - 1958)

Children: Helen M Sheldon (1898 - 1976)、Arthur Frederick Sheldon (1899 - 1929)

という記載があります。これを見ると、自分とまったく同じ名前をつけた最愛の息子に、1929年に弱冠30歳で旅立たれ、その翌年、ロータリーを退会していることが分かります。